

平成30年度における学長表彰対象者について

候補者(団体)	団体	人数	所属・職名等	選定理由
人文学研究科 地域連携センター (代表者：奥村 弘)	○	8	人文学研究科教授 ほか7名の教員	<p>人文学研究科地域連携センターは、阪神・淡路大震災の経験を踏まえ、本学最初の部局地域連携センターとして2002年に設立、歴史文化を活かした地域づくり支援や、地域歴史遺産を活用できる人材の育成、地域歴史文化の研究に取り組んでいる。県内ほとんどの自治体と持続的に連携した事業を展開し、共同研究等の受入額も毎年二千万円程度と国立大学の人文系として、もっとも大規模な事業を展開、国立大学のモデルとして文科省GPプログラムに4度、選出されてきた。</p> <p>同センターは、本学を中心としたCOC+プログラムで歴史文化領域を担い、その成果は、昨年度、神戸大学出版会の最初の刊行物である『地域歴史遺産と現代社会』として、昨年1月に刊行された。また同月、本学と人間文化研究機構、東北大学との間で、「歴史文化資料保全の大学・共同利用機関ネットワーク事業」の連携・協力に関する基本協定が結ばれたが、この事業は、同センターを基盤的な組織とした2度の科研Sの成果を踏まえたものであり、本学の主動機関として西日本の大学連携の中核的な役割を果たすこととなった。</p> <p>このように、昨年度の活動の中で同センターは、神戸大学の地域連携の水準を全国にリードするものとして高めるだけでなく、地域歴史文化の実践的研究においても全国の大学の中核的な役割を果たし、昨年度は大規模な国際学会を開催するなど、成果の国際発信においても大きく貢献した。さらに、同センターの研究は、歴史文化領域にとどまらず、本学の大規模自然災害研究の主導的な役割を確かなものにするものでもあり、神戸大学出版会の設立への貢献とあいまって、研究大学としての本学のリーダーシップ確立に大きな役割を果たした。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
法学研究科・加算プログラム・ワーキング・グループ (代表者：上嶋一高 前実務法律専攻長)	○	7	法学研究科教授 ほか6名の教員	<p>本学法学研究科は、法科大学院制度発足以前から法科大学院制度に関して積極的に発言し、文部科学省が同制度を形成するうえで大きく貢献してきた（「神戸大学における法学教育再編の構想」ジュリスト、1999）。法科大学院制度発足後は、法学研究科実務法律専攻として、弁護士、裁判官、検察官など優れた法曹・法律実務家養成に努め、司法試験合格率で常に上位に位置し、累積合格率でも7割（5位）に達している。このような高い成果が評価され、日本を代表する法科大学院で構成される先導的法科大学院懇談会（LL7）の構成メンバーとなっている。</p> <p>「法科大学院公的支援見直し強化・加算プログラム」は、文部科学省が法科大学院において先導的な取組を支援し、教育力の向上を図ることを趣旨として導入されたものである。実務法律専攻の中で設けられた加算プログラムワーキンググループ（加算グループ）は、これまでの本学の取組を活かしつつ、教育力の一層の向上を可能にする5つのプログラムを申請した結果、文部科学省からいずれも極めて高い評価を得、全国で唯一最高配分率135%を獲得することができた。</p> <p>2018年の学長年頭挨拶でも触れられたように、この成果はそれ自体高く評価されるべきであり、本学法科大学院の教育力向上につながっているが、それとともに、各種マスメディアでも大きく取り上げられ、神戸大学法科大学院、さらには神戸大学の教育力の高さを全国に知らしめることにつながった。</p> <p>加算グループによるこの成果は、本学法科大学院の教育力向上および神戸大学のブランド向上への貢献が極めて大きい。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
末次 健司		1	理学研究科 講師	<p>末次氏の専門は、従属栄養植物と呼ばれる「光合成をやめた植物」である。これらの植物は、開花期のわずかな期間しか姿を現さないため、分布情報すら明らかではない種が多く、その研究には困難を伴った。そこで末次氏は、精神的なフィールドでの探索を行い、詳細な研究の遂行に成功した。さらに末次氏は、最新の解析技術と自身が明らかにした生態情報を発展的に組み合わせ、陸上植物に生態的ならびに形態的な多様性を生み出した従属栄養性進化のパターンとメカニズムを解明しつつある。</p> <p>末次氏の研究成果は、植物が「光合成をやめる」という究極の選択をした過程で起こった変化を包括的に理解するものとの評価を受け、ここ3年の間に次々と所属学会（日本植物分類学会、日本植物学会、日本生態学会）の奨励賞を受賞したほか、2016年12月には、科学技術・学術政策研究所（文部科学省）より、神戸大学では初となる「科学技術への顕著な貢献2016（ナイスステップな研究者）」に選定された。また今年の4月には、「文部科学大臣表彰若手科学者賞」も受賞した。上記の研究成果は、大学として若手研究者育成に力を入れてきた成果の一端として、学長定例会見でも紹介された。</p> <p>さらに末次氏は、研究成果を一般にわかりやすく伝えることにも力をいれており、その研究成果は、全国版の大手新聞紙面で特集記事が組まれることも少なくない（ここ一年でのテレビ、新聞などのマスメディア掲載回数は30回以上を数える）。よって、教育研究、社会貢献等に関して特に顕著な功績があり、神戸大学への貢献が大きい。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>
鬼界海底カルデラ探査チーム (代表者：巽好幸)	○	24	海洋探査センター教授 ほか23名の教職員	<p>平成27年10月に設置された海洋底探査センター（KOBEC）では、自然災害の中でも最高レベルの危険度（＝被害者数×発生確率）を示す「巨大カルデラ噴火」のメカニズムを理解して噴火予測を行うことを目的として、平成28年度から世界初となる総合的な海域地下構造探査を「鬼界カルデラ」で開始した。練習船「深江丸」にとっては初めての本格的な海底探査ではあったが、各部門の協力によって次々と社会・学界が注目する成果を上げ、本年2月にはScientific Reportsに論文発表を行った。この論文のAltmetric score（社会的インパクト指数）は、同時期の全世界発表論文28万編中161位である。</p> <p>同時にKOBECでは、これらの成果をより広く社会に周知し、最新の科学的知見に基づいて「変動帯日本列島」に暮らす意識を高めるために、テレビ・ラジオ・新聞・週刊誌などのマスコミを通じた広報活動、一般講演会などのアウトリーチ活動を積極的に行ってきた。これらの中で数値データとして特筆すべき例は、1) NHKスペシャル「シリーズ列島誕生：ジオジャパン」（2編）の視聴率がいずれも10%超えを記録してNHKスペシャル中で年間2位の視聴率であったこと、2) NHK BSプレミアム「滝沢秀明の火山探検紀行 巨大カルデラの謎に迫る」がNHKの全番組中で最高再放送希望数であったこと、3) Yahoo個人ニュースの23編の記事に対する通算PV（ページビュー）が2年間で370万回を超えたこと、などである。</p> <p>これらの「鬼界海底カルデラ探査チーム」の活動によって、神戸大学、深江丸、海域研究、火山噴火などに対する国内外の注目度は以前と比べて格段に高まり、その結果として特色ある卓越研究大学を目指す神戸大学の発展に大きく貢献した。</p> <p>以上の功績を認め、学長表彰に選定した。</p>

【財務上の貢献が著しい研究者】

NO	所属	職名	氏名	備考
1	大学院医学研究科	教授	飯島一誠	※
2	大学院工学研究科	教授	松山秀人	※
3	大学院医学研究科	教授	鈴木聡	
4	都市安全研究センター	准教授	廣瀬仁	※
5	大学院医学研究科	特命教授	高井義美	
6	大学院工学研究科	教授	神野伊策	
7	大学院工学研究科	教授	荻野千秋	
8	大学院医学研究科	教授	古屋敷智之	
9	大学院医学研究科	准教授	高橋裕	
10	大学院医学研究科	准教授	吉田優	
11	大学院工学研究科	教授	井料隆雅	
12	先端バイオ工学研究センター	教授	蓮沼誠久	
13	先端バイオ工学研究センター	教授	西田敬二	
14	バイオシグナル総合研究センター	教授	菅澤薫	
15	大学院医学研究科	教授	錦織千佳子	
16	大学院理学研究科	教授	播磨尚朝	
17	大学院システム情報学研究科	教授	大川剛直	
18	計算社会科学研究センター	教授	上東貴志	
19	大学院人間発達環境学研究科	教授	青木茂樹	
20	大学院医学研究科	講師	金川基	
21	大学院医学研究科	非常勤講師	水谷清人	
22	大学院医学研究科	教授	小川渉	
23	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	白川利朗	
24	大学院科学技術イノベーション研究科	教授	青井貴之	
25	大学院農学研究科	教授	杉本幸裕	
26	大学院工学研究科	教授	向井敏司	
27	大学院医学研究科	特命教授	清野進	
28	大学院農学研究科	教授	河端俊典	
29	医学部附属病院	教授	佐々木良平	
30	大学院農学研究科	教授	三宅親弘	
31	大学院理学研究科	准教授	身内賢太郎	
32	大学院人間発達環境学研究科	准教授	源利文	
33	大学院人間発達環境学研究科	准教授	谷篤史	
34	大学院工学研究科	准教授	松井雅樹	
35	大学院理学研究科	准教授	大道英二	
36	大学院理学研究科	教授	牧野淳一郎	
37	大学院医学研究科	教授	和氣弘明	
38	大学院システム情報学研究科	教授	的場修	
39	大学院医学研究科	教授	的崎尚	
40	大学院理学研究科	准教授	越智敦彦	
41	大学院工学研究科	教授	西野孝	
42	大学院人文学研究科	教授	奥村弘	
43	大学院人間発達環境学研究科	准教授	蘆田弘樹	
44	大学院医学研究科	教授	仁田亮	
45	大学院医学研究科	特命教授	大野良治	
46	数理・データサイエンスセンター	教授	齋藤政彦	
47	バイオシグナル総合研究センター	教授	伊藤俊樹	
48	大学院工学研究科	教授	水畑穰	

※は財務貢献者の代表